

入野小学校 校長室だより

2016.2.5(金) No.36 文責：芝

5人の言うことが分かる？

先々週も「なかよし朝会」の話題でしたので、今回もなのが少々気が引けるのですが、お付き合いください。

昨日の「なかよし朝会」は、ちょっと変わった内容でした。「児童会役員5人が同時に別々の言葉を言う → それを当てる」というゲームです。ただ、それでは難しすぎますので、「食べ物の名前」とか「果物の名前」というヒント(?)が先に告げられます。

下の写真は児童会の役員がマイクに向かって一斉に食べ物の名前を言っているところです。私には全く聞き取れません。昔、聖徳太子が一度に10人の話を聞き、それぞれに的確な答えを返したという伝説がありますが、これが分かるなら、そんな伝説級、と言った感じです。ですから、さすがに子どもたちも問題を何回か繰り返してもらって、やっと答えにたどり着くという状況でした。

その中で、感心したことが二つ。

このゲームでは、聞き取ることも難しいのですが、5つの名前を覚えているということも難しいことだと思います、大人には…。なのに、子どもたちはそれを苦にしていないの



です。今更ながら、子どもたちの記憶力に感心しました。それが一つです。

もう一つは下の写真。中央で順番を待っている4年生は、今答えている1年生と同時にマイク前まで行ったのです。先に着いたほうが先に答える権利があるのですが、この4年生は1年生の背中をやさしく押して前に出し、自分は後ろに並びました。自然な動き、一連の動作の中でそうしたのです。

こういうことを経験した1年生は、こういう行動ができる上級生になってくれるでしょうし、こういう行動ができる上級生は、みんなから信頼される大人になるんだろうなと感心しながら見たことでした。



このゲーム、子どもたちは夢中でした。下の子どもたちは、写真では分かりませんが、定位置よりも2m以上前に出て来ているのです。「聞き取りたい・答えたい」という気持ちが少しずつ重なった2mなのでしょうね。

